

## Ⅱ 地域及び児童の実態

### 1. 地域の実態

この地域は、宮という地名の由来ともなっている日前宮を中心に、黒田・太田遺跡、鳴神貝塚、花山、岩橋千塚古墳群等に囲まれた、往古から開けた土地である。

従来は、農業を主とした農村的な地域であった。しかし、近年の和歌山市の産業の発展、人口の増加にともない都市のドーナツ化現象があらわれてきた。本地域も急速に都市化し、住宅が大量に建設され、それに伴う諸機関、商店も増加してきた。

そのような状況から、勤労者の保護者が多く、農業、自営業者は比較的少ない。

都市化の波に比べ、道路整備が遅れていたが、ここ数年前から道路の整備が急激に進展している。そのため、児童の登下校には常に交通安全に配慮しなければならない状態に置かれている。

旧来の伝統的風習を守りながら、開発が進みつつある新しい状況に対応する必要がある、その両側面の調和を学校としても考慮していかねばならない。

### 2. 地区別児童数

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
有 家	29	22	28	21	22	19	141
鳴 神 南	26	26	22	34	28	29	165
鳴 神 東	12	5	6	4	4	6	37
鳴 神 西	3	5	5	6	6	5	30
秋 月	10	7	9	11	10	11	58
鳴神団地	10	11	7	7	9	4	48
太田八丁	2	6	1	3	7	3	22
津 秦	16	11	16	18	21	15	97
合 計	108	93	94	104	107	92	598

地区外の児童はどこかの地区に入ることになりました。(H27.5.1~)

### 3. 児童の実態

- 明るく、かつ純朴な児童が多い。
- 各種スポーツ団体や文化・教育団体等に参加して、放課後や休日に、活動に励む児童が多い。
- 大規模校であるが、一人ひとりの存在感が大きく、自分の課せられた課題に立ち向かう責任感の強い児童が多い。